

市町村名		浦添市					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4- 島桑オジー & オバーで観光・産業・街おこしプロジェクト		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-3節-9項-イ目		
	県産品の販路拡大と地域ブランドの形成						
担当部署名	市民部商工産業課		事業実施(予定)年度	平成24年度～平成28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	- 1-(4)
事業内容	特産品開発のため、沖縄特有の桑品種である「シマグワ」を活用し、養蚕業(繭の生産)のほか、お茶や桑の実、繭の化粧品、絹糸等の商品化に取り組む。高齢者を活用することで、コスト圧縮と事業者への安定的供給を図る。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ( )						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a)当初予算額	17,387	32,424			
		(b)予算現額	17,386	32,422			
		(c)増減額(b-a)	1	2			
		(d)繰越額	-	-			
		A.計(b+d)	17,386	32,422			
	B.執行済額		15,646	26,747			
	うち交付金充当額		1,248	19,456			
	次年度繰越額		-	-			
	執行率(%) (B/A)		90.0%	82.5%			
予算の状況の説明		平成25年度事業については、事業収益が2,937,556円生じたので、その分は実費精算した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度(4-)	25年度	26年度(4-)	27年度	
	事業に要する桑木の作付面積	目標	( 3,160坪 )	( 4,800坪 )	( )	( )	
		実績	3,836坪	4,722.47坪			
		目標	( )	( )	( )	( )	
		実績					
達成状況説明	島桑を用いた商品(繭、桑茶)を製造し販売を実施した。また、桑果実選抜品種の育生や桑茶に発酵技術を取り入れた商品開発を専門機関と共同で進め、データや企画検討を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(24年度)	24年度(4-)	25年度	26年度(4-)	目標値(28年度)
	事業に要する桑木の作付け面積	目標	( 3,160坪 )	( 3,160坪 )	( 4,800坪 )	( 5,800坪 )	( 8,800坪 )
		実績		3,836坪	4,722.47坪	6,434坪	
	【参考指標】乾燥桑葉生産量	目標	( - )	( 0kg )	( 300kg )	( 600kg )	( 2,400kg )
		実績		0kg	360kg	540kg	
	【参考指標】桑関連商品合計販売額	目標	( 90千円 )	( 90千円 )	( 2,000千円 )	( 4,000千円 )	( 12,000千円 )
実績			90千円	2,938千円	4,036千円		
進捗状況説明	生産基盤となる桑畑の植付け面積については、平成24～25年度は、浦添市内を中心に農地を探していたが、本市のみでは大規模な農地確保が困難なため、平成26年度からは他市町村にも農地を拡大し目標値の達成に努めている。乾燥桑葉生産量は、桑茶の生産が開始されたのが平成25年度からとなっているため、25年度以降の数値化となっている。販売額は、桑を活用した商品の合計売上を目標としており、平成24年度は商品化が簡易な繭のみの販売となっており、平成25年度ではお茶、ワークショップが追加され、平成26年度には桑果実と絹糸の販売が追加されている。以降は事業が進むにつれ新たな桑品種開発や商品力のある加工商品の開発を進めながら、商品原料となる桑の生産安定化、最終的な販路拡大・PRに努め事業の採算性を目指す。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>沖縄の桑は、日本本土の桑品種とは異なる成分・性質の地域資源であり、品種や気候が日本とは異なるため、沖縄独自の剪定技術、肥培管理技術、育種技術、適切な収穫回数等の検討、有効成分の分析及び日本の桑品種との比較研究等の構築を実施しており複数年の検証が必要である。</p> <p>桑茶については生産量が少ないため、市内の量販店を中心とした営業活動を実施した。今後は生産量の拡大に伴い市外、県外への販路拡大を目指す。</p> <p>繭・絹糸の販売については、購入する織物業者からの要望に応じて生産・販売を実施しているほか、繭・絹糸を利用した体験型ワークショップによる収益事業も平成26年度から実施している。</p> <p>台風・干ばつ等による収穫被害が生じてしまう。</p>	<p>複数年かかる検証事業については、最終年度の目標と年度ごとの段階的な計画に基づいて進めていく。</p> <p>桑茶については、県内の需要を満たす生産量の確保を引続き取り組むほか、県外での物産展や食品展等で県外企業との取引に係る調査を実施する。</p> <p>繭・絹糸については、限定的な織物業者だけでなく簡易的な体験型ワークショップについてもターゲットを絞ったイベントなどを実施していく。</p> <p>台風については、台風の発生が頻繁に生じる8～10月時期の収穫方法の改善、素早く加工処理が可能な体制を構築することで最小限に収穫被害を抑えることを検討している。</p>

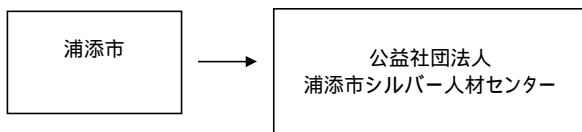
**今後の取り組み方針**

平成27年度には、桑乾燥葉の生産量を平成26年度の540kgから1,600kgへ増やすために、原料となる桑畑の拡大に向け、他市町村での一括した農地の確保を進めている。規模拡大に伴い従来の小規模な生産・製造の一貫体制から、大規模な桑畑の管理及び収穫作業で高齢者の労働力を活用しつつ、加工については一括した外部への加工委託を実施することで生産量拡大とコスト圧縮に取り組むことを検討する。販路拡大においては、新聞、テレビ等のマスメディアを活用しながらPRを行うほか、県外への販路開拓のための調査、商談のために、平成27年度に東京で開催される健康食品展等への出展を検討する。

果実用品種の育生については、開発後の権利関係のトラブルを防ぐために品種開発と品種登録を同時並行で進めていくことを検討する。なお、品種登録には複数年にわたる育生品種のデータが求められるため、中長期的な計画と年次的な計画を検証しながら実施する。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
26,747	24,321	19,456	4,865	2,426



研究機関と連携し、シマグワを利用した商品開発や事業化を目指した原料供給量安定化の整備や販売の実施。また、高齢者でも作業可能な畑の管理体制や製造体制の構築、シマグワのPRや販路開拓、地域事業者と連携した商品開発や販路開拓などの調整・検討・実施など。

資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	<p>観光型の地域特産品開発と事業化が第一義的な目的であるが、本市は高齢者を活用する事業としても位置づけているため契約方法は、地方自治法施工令第167条の2第1項第3号に基づき締結し妥当と考える。</p> <p>費用・使途に関しては、事業目的達成の観点から必要なものかどうかを事業途中や事業完了の際に、その都度委託者と受託者の間で協議し適正であると確認している。</p>
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		